

スティバ・サラスワティ外国語大学訪問の報告

小澤俊太郎
(こども学科 助教)

スティバ・サラスワティ外国語大学への訪問

スティバ・サラスワティ外国語大学（以後スティバ大学）に訪問をし、交流会を行った。昨年からは本学と提携を結んでいる大学であり、これまでもお互いの学生間の交流を行ってきた。昨年の海外研修ではスティバ大学の学生が本学の研修旅行に同行し、本学の学生と交流を行った。またその後もスティバ大学の学生の中から4名の学生が日本へお越しになり、本学の学生が日本を案内するなどの交流を行ってきた。昨年初めてご訪問させ

ていただいた際に提携を結び、今後の連携プログラムについて両大学間で話し合いも行われてきた。

今回は約1年ぶりとなる訪問となり、昨年同様に、いやさらにそれ以上に温かく迎えていただいた。交流会開催に先立ち、両学長による挨拶が行われ、スティバ大学と埼玉純真短期大学の間でより良い関係を築いていくという思いをお互いに述べられた。



交流会前に打ち合わせと受けの相関



スティバ大学学長の挨拶



埼玉純真短期大学学長の挨拶

その次に、スティバの学生によるバリ舞踊が披露された。演目はバリ島では非常に伝統的な踊りであり人気の高いものとのことであった。音楽が流れ出すと、学生による見事な踊りを鑑賞することができた。目の動き、手指の動きは日本にはない独特の動きで本学の学生達も食い入るように鑑賞していた。

バリ舞踊の後には、スティバの学生によるプレゼンテーションが行われた。プレゼンをしてくれた学生はインドネシアのマルク州の出身で、マルクで

行われているお祭り「バンブー・ギラ」について日本語で発表をしてくれた。

「バンブー・ギラ」は男性達が持つ長い竹に霊が宿り、狂ったような動きをする儀式である。煙を用いて男達に指令を出しているが、次第に取り憑かれてしまいコントロールができなくなってしまう。（実際に取り憑かれているわけではなく、そのようなストーリーと演出。）イスラム教の伝統的な儀式の意味合いを強く持っているようである。



バリ舞踊のパフォーマンス



マルクについてのプレゼン



マルクについてのスライド

バリ舞踊, 学生によるプレゼンテーションという素晴らしいプログラムをご用意いただいたお礼に, 本学の学生もパフォーマンスをさせていただきました。「さくらさくら」を踊らせていただいた。桜の枝と扇子を持ち, 華麗に踊ることができた。浴衣を着て, 日本らしさが伝わったのではないだろ

うか。バリ島の踊り, 日本の踊りを比べる良い機会ともなったと感じた。また, 手話での「世界中のこどもたちが」や手あそびなど保育者を目指す学生ならではのと言えるパフォーマンスも行った。日本の文化についてより知っていただけたらという思いも込めて行った。



「さくらさくら」を踊る



手話で「世界中のこども達が」

そして次に両大学間で記念品・プレゼントの交換が行われた。学生達はそれぞれにプレゼントを手にして大喜びの様子であった。

気がつけばあっという間にお昼の時間となり, それぞれグループごとに分かれて, 用意をさせていただいたお昼ご飯をいただき, 学生間の交流の場となった。美味しいご飯のおかげもあり, 各グループすっかり意気投合した様子で, グルー

プごとに好きな話題で話し合い, 記念写真を撮るなどして交流を深めていた。お互いに日本のこと, バリ島のことを深く知ることができる良い機会となった。

今回の交流会も素晴らしいパフォーマンスをお互いに披露し合うことで, 文化交流の良い場となった。今年度のスティバ大学との交流会を無事に終えることができた。



プレゼント交換



グループで昼食



マルクについてのスライド